

ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くのかを知らない。霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

風がおる春に新緑を装う木立は揺れる。風に香りをつける野の花々は開き揺れる。どこから吹いてくるのかわからない。どこに吹き去るのかもわからない。それらをいっこうにかまわず吹いている。風の自由が都会を、野原を、山々を吹き抜ける。この風に誘われて人々は動き回る。この風に吹かれたくて遠くにでかける。吹かれたときの爽快感がなんとも言えない。

この風はどこから来て、どこへゆくのか知らない。そして、この風はやがて静まり消えてゆく。ところが、霊によって生まれる者はそよぐ風と似ているところもあるが、全く異なる。霊を知らない、信じない者に風の便りを届けたいので、霊の出来事に思いを向けさせる。

霊は神から御子イエスによって贈られた。霊は信じて受ける者のうちに住む。霊は人を新しく生まれ変えさせる。霊は木立を揺るがす風のように消えることはない。霊はとこしえに人々に吹き込み、地上にこれまで存在しなかった新しい共同体を建て上げ、そこに満ち溢れ、そこから世に広がってゆく。

2023年5月6日